

平成30年 1月 31日

学位論文審査並びに最終試験結果報告書

大学院歯学研究科長 殿

主査 永易裕樹



副査 宮川博史



副査 細矢明宏



今般 松本光生 にかかわる学位論文審査並びに最終試験を行い下記の結果を得たので報告する。

記

- 1 学位論文題目 ナタマメエキスが関節リウマチと歯周炎の相互作用に対して与える効果について
- 2 論文要旨 別添
- 3 学位論文審査の要旨 別添（様式第12号）
- 4 最終試験の要旨 別添（様式第13号）

以上の結果 松本光生 は博士（歯学）の学位を授与する資格のあるものと判定する。

学位論文審査の要旨

主査	永易裕樹
副査	宮川博史
副査	細矢明宏



氏 名 松本光生

学位論文題目 ナタマメエキスが関節リウマチと歯周炎の相互作用に対して与える効果について

以下本文（15行目から1000字以内）

審査委員会において、昨年11月から本年1月までの3か月間で審査を進めてきた。本論文では実験的関節炎モデルマウスに歯周炎を人工的に誘発することにより、RAとPDの両疾患が各疾患に対して増悪因子として作用することが検討されたとともに、SBEがRAとPDの相互作用に及ぼす影響を解析したものである。RAマウスにPDを発症させると相互に作用しRAの病態を増悪させることを明らかとしている。更にSBEの作用により、特にPD、RAに対して抑制作用を発揮し、PDの重篤化を抑制し、RAの進行に対しても抑制的に働くことが解析された論文である。

主査と副査の指摘事項には、1)論文の文章表現の修正、2)SBEの抗炎症作用が明らかとされたDataの追加、3)H-E染色病理組織像の拡大率の変更、4)カテプシンK免疫染色においてcontrol、PDおよびRAにて組織学的な差を確認出来なかったため、確認出来るような像への変更、5)図の有意差標記の変更等が指摘された。

論文表現においては、指摘部分において適切に表現訂正がなされた。SBEの抗炎症作用を示すDataとして、LPS刺激THP-1細胞から産生されるTNF- α とIL-1 β がSBE処理により抑制されるSupplemental figureが加えられた。H-E染色病理組織像の拡大率の変更により、各群における組織学的変化が明確となった。カテプシンKの免疫染色像において、全面的な差し替えによってcontrol、PD、RAおよびPD+RAにおいてSBE投与によるカテプシンK陽性細胞の出現の差を認識できるようになった。カテプシンK陽性細胞に定量解析においては、評価部位が一定していなかったため今後の検討課題となった。

以上の松本光生先生は、審査過程のなかで主査、副査および指導者とも協議の上、論文の内容修正、データの再検討と差替えを行い、適切に修正された。今後のSBEの作用メカニズムの詳細な解析が期待される論文で、十分に学位論文に相応するものである。

最終試験（学力の確認）の要旨

主査 永易裕樹

副査 宮川博史

副査 細矢明宏



氏 名 松本光生

審査委員会において、平成29年11月から本年1月までの3か月間で審査を進めてきた。審査時に論文改善点の指摘と論文内容における質疑応答による申請者の学力の確認を行った。

論文審査の過程で、自らの研究内容は十分把握しており、今後、これまでの問題点、発展させるべき内容の認識もされていた。以上の結果、学位論文に関する十分な知識と研究遂行能力を有すると共に、博士（歯学）の学位を授与するに値するものと判定した。